

財政事情を公表します

予算の執行状況

平成21年度予算の6月末までの執行状況がまとまりました。一般会計では予算額98億1,977万6千円に対し、6月30日現在、歳入は28億7,682万7千円が収入済み。収入率は29.3%です。一方、歳出は23億9,117万1千円が執行され、執行率は24.4%です。一般会計では、歳入予算は収入の種類ごとに、歳出予算は支出の目的により区分され、これを表したのが左のグラフです。特別会計の執行状況などは下のとおりです。

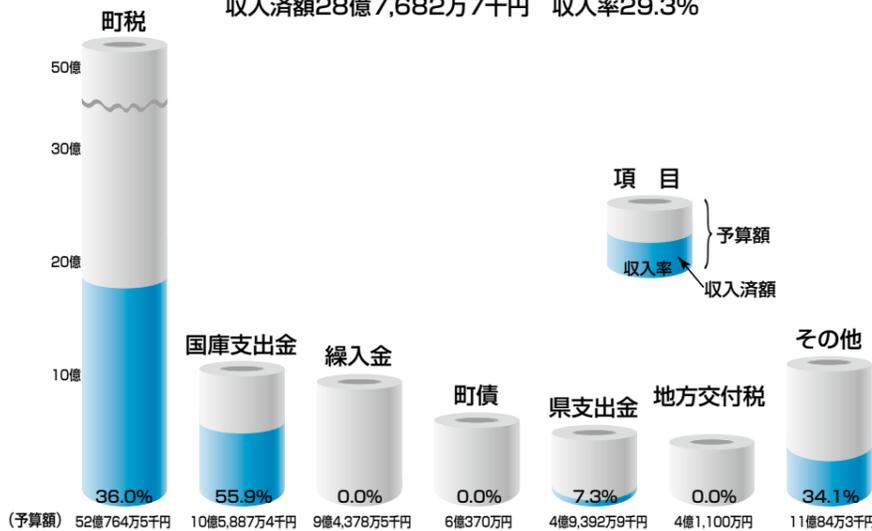
平成21年度 予算の執行状況

平成21年6月30日現在

▶問い合わせ 総務グループ ☎079(435)0357

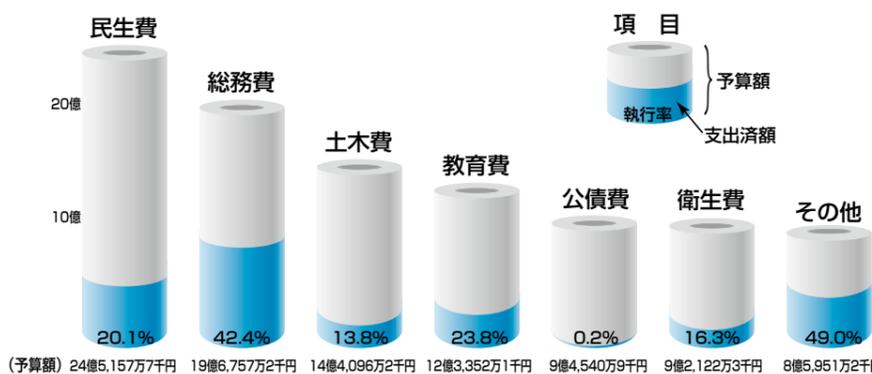
入ってくるお金(歳入) 予算額98億1,977万6千円

収入済額28億7,682万7千円 収入率29.3%



使うお金(歳出) 予算額98億1,977万6千円

支出済額23億9,117万1千円 執行率24.4%



用語説明

◀歳入▶町税…町民税や固定資産税など
繰入金…基金を取り崩したものを
町債…道路などを整備するために借り入れたお金
国庫支出金…道支出金・地方交付税…国や県から支出されるお金
◀歳出▶民生費…高齢者や障がい者、児童福祉など
総務費…財産管理や税務事務など
土木費…道路や公園の整備など
教育費…学校や公民館の整備など
公債費…町債の返済など
衛生費…ごみ・し尿処理や保健事業など

特別会計の収入・支出状況

事業名	予算額	収入額	支出額
国民健康保険	34億1,994万1千円	6億7,749万1千円	8億4,689万8千円
財産区	12億1,348万円	12億3,617万8千円	119万1千円
老人保健医療	4,428万7千円	965万5千円	30万9千円
下水道	13億9,669万円	4,351万4千円	8,537万9千円
介護保険	14億6,102万5千円	2億6,845万1千円	2億3,823万5千円
後期高齢者医療	2億4,716万3千円	2,748万9千円	2,054万9千円

水道企業会計の収入・支出状況(税込み)

(1) 収益的収入および支出

収入		支出	
営業収益	1億2,468万7千円	営業費用	5,908万円
営業外収益	256万9千円	営業外費用	0円
特別利益	0円	特別損失	18万円
合計	1億2,725万6千円	合計	5,926万円

(2) 資本的収入および支出

収入		支出	
負担金	901万3千円	建設改良費	350万8千円
固定資産売却	0円	企業債償還金	0円
		投資	9,997万円
合計	901万3千円	合計	1億347万8千円

町債の状況

区分	現在残高
下水	95億9,252万3千円
総務	41億4,247万7千円
土木	32億1,392万8千円
民生	7億7,215万7千円
教育	6億5,988万9千円
消防	1億7,459万4千円
その他	7,578万1千円

公有財産

土地	574,160㎡
建物	89,507㎡
有価証券	990万円
出資金等	3億7,236万2千円

9月10日は下水道の日

『下水道地球を守るリサイクル』

(平成21年度の下水道推進標語)

▼問い合わせ 下水道グループ ☎079(435)2373

9月10日は下水道の日です。普段は地面の下にあって目立たない下水道ですが、快適な生活や自然環境の保護に大きな役割を果たしているのです。

私たちを取り巻く生活環境は、社会経済の動向に大きく影響されてきました。近年、生活様式も高度化し、自然に対して負担をかけるような努

力していくことが、私たちが取り組まなければならないこととあり、子どもたちへの未来に向けた配慮でもあります。下水道はまちづくりに欠かせない根幹的な事業です。播磨町に「行ってみたい・住んでみたい・住みたい・住んでよかった」と思えるような清潔で環境に優しいまちづくりに向け、下水道事業を行っています。下水道の普及推進に皆さんのご

理解とご協力をお願いします。

「ご注意!」点検商法

「役場の方から来た」とかた、ご家庭を訪問して水道管や下水道管などを点検・清掃する業者がいます。

「無償で点検します」と言っておきながら、わずかな不良箇所を見つけて強引に修理を迫るといった手口で、多額の料金を請求するトラブルが各地で発生しています。町では、業者にそのような指示は出していませんので、くれぐれもご注意ください。

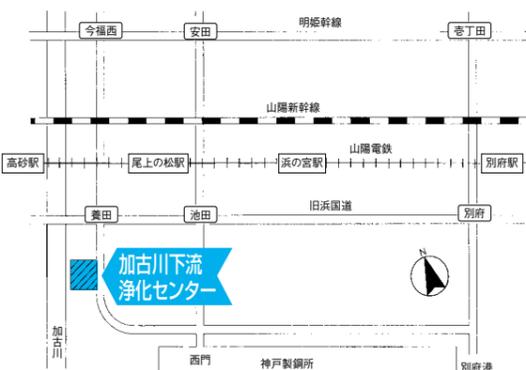
施設見学会のお知らせ

皆さんの家庭から出た排水を集めて、きれいな水に戻す働きをしている下水処理場を見学することができます。

▼日時 9月10日(木)
午前10時~11時
▼場所 加古川下流浄化センター1(加古川市尾上町養田1687-2)



▶加古川下流浄化センター



国民年金の国庫負担

基礎年金には国庫負担(国の税金)が含まれています

国民年金からは、老齢基礎年金のほか、障害基礎年金、遺族基礎年金が支給されますが、これらの基礎年金には国庫負担(国の税金)が含まれています。

この国庫負担の割合が、法律改正により、平成21年4月以後の加入期間について、これまでの3分の1から2分の1に引き上げられました。これによって、将来にわたって、国民年金が安定的に運営されることになりました。

国庫負担率の引き上げと免除制度

40年間、国民年金の保険料を納めた方には、65歳から、792,100円(平成21年度価格・年額・以下同じ)の老齢基礎年金が支給されますが、平成21年4月以後の加入期間のみの場合、その半額の396,050円が国庫負担になります。

一方、国民年金には、経済的に保険料を納めることが困難な方などのため、「保険料が免除される」制度があります。保険料免除では、所得の状況によって、全額、4分の3、半額または4分の1の額の保険料が免除されますが、これらのすべての免除期間について、保険料を納めたときと同額の国庫負担が支給されます。

また、国庫負担率の引き上げによって、免除期間についての老齢基礎年金の額が引き上げられます。例えば、全額免除では、仮に、平成21年3月までの40年間保険料を免除された場合の額は264,000円ですが、平成21年4月以後の40年間保険料を免除された場合の額は396,100円となります。

ただし、若年者納付猶予制度と学生納付特例によって免除された期間について追納しなかった場合、基礎年金の受給権には反映されませんが、老齢基礎年金の年金額には反映されない「カラ期間」となっていますので、ご注意ください。

老齢基礎年金は25年の資格期間を満たしていない方には支給されません。これは、老齢基礎年金に含まれる国庫負担を受ける大切な権利を失うことにつながるわけですから、くれぐれもご注意ください。

▶問い合わせ

- 保険年金グループ ☎079(435)2581
- 加古川社会保険事務所 ☎079(427)4740

※年金のこと、もっと詳しく知りたい方は、社会保険庁の<http://www.sia.go.jp/>(ホームページ)もご利用ください。

タウンミーティング

町長と語ろう

▼問い合わせ
企画グループ

☎079(435)0356

テーマ「10年後の播磨町」



7月11日(土) 午後1時～2時30分
西部コミセンにて 参加者20人

Q 消防団員が減っているが、町はどう考えているのか
A 現在、女性分団を合わせて消防団は12分団、定数は365人。将来的にはもっと減ってくるかもしれない。消防業務だけではないので今後、相談しながら検討していきたい
Q 消防団に新しい人が入らないので、町も考えてほしい
A 地域の事情も踏まえ真剣に取り組みたい
Q 町から避難命令が出たとき、自治会の中で誰が一人暮らしをしているのか、町の情報の開示は難しいとは思っている
A 災害時の要援護者救助のマニュアルを今年度中に配布するため準備中である
Q きれいで美しいまちにしたい。大中遺跡など昔からのいいところが残るまちにしたい
A 今、財政状況は大変厳しい時代にあるが、住民が必要

と願うものを実現していきたい。最近であれば特別支援学校。また医療、介護なども充実していきたいと思う。このような時代なので、町では他の資本を使って町の利便性が増し、住民福祉が充実すればいいと思う。美しい町については、考古博物館ができ、大中遺跡公園などを整備してよくなっている
Q 町の出生率が低いと予想している資料がある。少子化対策をお願いしたい
A 子育て支援や少子化対策に多くのメニューを用意しており、他市町に比べて子育て支援はかなり充実している
Q 人口減少の要因のひとつとして生まれてくる赤ちゃんが少ないということがある
A 少子化問題はいつもついて回る課題である。いろんな角度から勘案し、事業に磨きをかけていきたいと思っている
Q 小学生の登下校の際、まちかどに立つボランティアをしている。交通指導員はどこに所轄になるのか
A 交通指導員は教育委員会の所管になる
Q 交通指導員が休みの時、

ボランティアに対する連絡はどうなっているのか。また、学校の休校を知らずに立っていたが、連絡がなかったことがあった
A 各学校長が所管している。教育委員会を通じて、この事実を伝え、今後このようなことがないよう努めていく
Q ボランティアが出やすい環境というものを考えてほしい
A 老人会や自治会の方が、登下校時に立っていただいている。自治会の中の調整があつてできるのではないかと考えている
Q 文化の拠点となる場所はどこになるのか。コミセンや公民館などが点在しているが、総合的な場所があればと思う
A 今文化活動の中心はと言われれば中央公民館となる。今から新たに文化の拠点となる建物を造るのは難しい。今ある施設を改善しながら文化活動が活発になる環境づくりに努めていきたい
Q 正月・盆に播磨町に帰省した人が、大中遺跡に入れないのはおかしい
A 考古博物館も休館日を減

らそうと、年末年始の休みを2日のみにした。大中遺跡や郷土資料館についてもできるだけ開館するよう調整している
Q 企業との連携はどのようになっているのか。就職を町内の企業に働きかけるシステムはないのか
A 町と新島連絡協議会で懇談会を行い、お互いの意見を交換している。雇用は本社採用も多く、播磨町限定の雇用は要望しにくい
Q 高齢者が一人で医療機関に行くのは難しいと思うので、公共の交通機関が必要なのではないか
A 公共的な交通手段として、コミュニティバスを考えていたが議会の賛同を得られなかった。土山駅南に病院もできているので、実現させたいと思っている。町域は狭いが交通弱者に便宜をはかるためにも公共交通機関の充実を近い将来実現させていきたい

テーマ「10年後の播磨町」



7月17日(金) 午後7時～8時30分
野添コミセンにて 参加者12人

Q 町に老人介護の施設が少ないと思う。土山駅南には病院ができるそうだが、われわれが安心して老後を暮らせるようにしてほしい
A 介護施設については多いにこしたことはない。あえの里やグランハリマなどがあるが、介護施設が増えれば介護保険料に反映されることになるので、どちらを選ぶかの問題になる
Q 個人で入所すれば多額の支払いが必要になるので、公的機関でできるだけ安くしてほしい
A 町の計画の中では、現在これ以上施設を増やす予定はないが、土山駅南に誘致するはりま病院はいくつかの介護施設、福祉施設を持っている。そのような施設とうまく連携をとってほしい
Q 在宅介護などは大変なので、うまくケアができればよいと思う
A 介護保険は特別会計で、本来ならその保険料でまかなうはずが、今は一般会計から繰入しなければならない状況である。施設の増設はその分、

保険料の値上がりになり、そのあたりのバランスが難しい。特別養護老人ホーム以外で最近に住み慣れた地域で通ったり泊まったりできる小規模多機能型の介護サービスもできている。地域でサービスを受けられるものを計画し、在宅医療が充実できれば、自宅での介護を希望されるのではないかと思う
Q これからの播磨町を考えれば、子どもや老人が安心して安らぎを覚えるようなまちづくりをと思う。防災・防犯・交通問題を解決することが第一だと思う
A 防犯・防災などを念頭におかなければならないと認識している。計画的に進めていきたい。交通問題については、安全対策に取り組んでいかなければならない箇所が多くある。医療設備は、現在はりま病院と話を進めており、災害時の医療の拠点や危機管理を計画する上で必要だと考えるので、近いうちに契約を交わしたい
Q 今後どのように生涯学習を進めていくのか
A 団塊の世代の方にいろんな触れ合いの場を設けたり、

子どもに還元したり、自治会の中心的な役割になってもらったり、地域づくりに生かしていくために、ことぶき大学など学びの場が必要になってくると思うので、今後引き継ぎ力を入れていきたい
Q 中央公民館やサークル活動の運営をNPO法人に任せたいが、町として指導などはしていないのか
A 法律が改正され指定管理者制度が新たにできた。館の運営・企画を民間がすることでサービスの向上と経費の削減をねらい、公募している。教育委員会の生涯学習グループが常に関わっており、毎月の会議で現状の報告などを受け指導している
Q いきいきセンターに入れ墨をした人が入っているが、町は把握しているのか
A 入れ墨の件については、設立された当時の対応は、法務局との協議の中で決めており、公共の施設では拒めないとして判断した。これまでも何回も協議している。ただ、他の利用者の気持ちを考え以前に協議した。改善されていると思っていだが、何の策もっていないなら協議をしていき

たい
Q 総合計画の概要版とあるが、もう少し具体的なものはあるのか。また、地震を想定した時、公園はよいが学校は施設されているので非常時にはどうするのか
A 総合計画については、町のホームページで詳しく公開しており、基本構想・基本計画・実施計画がある。学校については、職員が駆けつけられる場合は職員が、難しいようであれば、スポーツクラブや住民の方に協力を得ながら避難所としての開設となると思う
Q 税を納めている人たちが住みよいまちにすべき
A 今回も策定するに当たって4千人にアンケートをとった。そのうち45%の回答を得たが、家族のニーズや思いも答えてくれたと思う

